２０２６年度 ジェロントロジー研究助成 対象者（敬称略）

※共同研究の場合代表研究者

形態	氏名	所属	研究テーマ	金額（万円）
共同	秋山 稜登	群馬大学/大学院保健学研究科	高齢者のデジタル生活能力評価法の開発 —デジタル化したIADLの客観的評価に向けて—	50
単独	井草 剛	松山大学 経済学部・経済学科	退職移行期の高齢就業者における「休めなさ」と就業継続・地域参加の関連構造—四国4県の60～74歳における年次有給休暇、家族介護、健康、生活時間配分、就業縮小・離職意向の量的・質的混合実証研究—	50
共同	入江 里奈	東京大学大学院 医学系研究科	自立して生活していた独居高齢者が相談・支援につながるまでの過程を明らかにし、人生100年時代における高齢者の自分らしい暮らしの継続を支える研究	50
単独	江尻 愛美	東京都健康長寿医療センター研究所	身体機能低下に対する高齢者の生活上の適応の概念整理と測定尺度原案の作成—心理的ウェルビーイングの維持を支える生活行動に着目して—	50
共同	加藤 里沙子	聖マリア学院大学 看護学部	要介護高齢者の日常生活援助における外国人就労者と指導者間の認識のズレの可視化と、組織教育体制の構築	40
共同	貞村 真宏	大阪大学 大学院人間科学研究科	高齢の万引き再犯者に社会福祉士による生活支援計画が示されたとき、市民は立ち直りをどこまで認めるか。判決前の福祉調査制度を持つ英国と持たない日本を比べ、制度が市民の受け止めを左右するかを実験で確かめる	50
単独	佐藤 研一郎	東京都健康長寿医療センター研究所	高齢者の多面的な加齢受容とウェルビーイング—加齢不安・もの忘れ不安・加齢観の調整効果—	50
単独	白木 舞	長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科	人生2回目の学校『高齢者学校』への参加は高齢者の生活の質(QOL)と関連するか——都市化が進むタイ・ラヨーン県における検証	31
単独	鈴木 雄	北海道大学 大学院工学研究院 社会資本計画学研究室	高齢者の健康維持に必要な地域公共交通サービス水準の解明と政策提言	50
単独	孫 潔	東京都健康長寿医療センター研究所	主観的認知機能低下を有する高齢者における認知症受診意図の形成過程：予期スティグマ、認知症関連不安および対処行動の逐次媒介効果の検討	50
共同	瀧 慎伍	広島大学大学院 人間社会科学研究科	高齢者のウォーキング継続支援に向けた心理社会的障壁とアシストスーツの初期受容性	50
共同	竹本 直也	人間文化研究機構 国立民族学博物館	ろう者の認知症・脳卒中に関する知識と情報アクセスの実態把握及び日本手話による「伝わる」情報提供方法の検討—ろう者との対話に基づく共創的アプローチ—	50
単独	照山 絢子	筑波大学 図書館情報メディア系	高齢者を対象としたデジタル環境におけるリスク・防犯・警戒言説の生産と受容—東京都区部における言説環境と高齢者のデジタル社会参加への影響に関する社会学的研究	50
共同	増井 幸恵	東京都健康長寿医療センター研究所	精神的健康に対する媒介要因としての協調的幸福の検討：個人内での協調的幸福と人生満足感のバランスに注目して	50
単独	三宅 悠斗	鹿児島大学 医学部保健学科	一人暮らし高齢者の社会的つながりのギャップが生じる生活場面の可視化と孤独感：混合研究による探索的検証	50
単独	山下 真里	東京都健康長寿医療センター研究所	Aging in placeを問い直す：大都市部における高齢期の住み替え後の心理社会的移行プロセスの解明	50
共同	李 錦純	近畿大学 看護学部看護学科	高齢者の在宅看取りを支える在宅医療資源供給体制の地域差に関するGIS研究 —全国二次医療圏別の訪問看護ステーションおよび在宅療養支援診療所の空間分布と自宅死亡割合との関連から—	25